

畦畔・農道・休耕田・麦跡の除草は7月上旬までに実施しよう！

乳白粒、胴割粒、斑点粒等を防止して

安全安心きれいな米づくりを！

>>>めざせ！整粒歩合80%以上！<<<

◎コシヒカリの出穂期は平年より2日～3日程度早いと予想

コシヒカリの生育は、草丈・茎数ともに平年並みとなっています。幼穂は生育の早い圃場で確認されています。穂肥の早期施用や過剰施用は、倒伏や籾数過剰による品質低下（乳白粒、未熟粒）につながり、高温・日照不足ではさらに助長されます。幼穂長、葉色を確認し生育状況に合わせた適正施用に努めましょう。

◎出穂期の予想（平年の出穂期 7月28日）

品 種 名	減数分裂期（-15～-5）	出 穂 期
コシヒカリ	7月10日～7月20日	7月24日～7月26日
カグラモチ	7月11日～7月21日	7月25日～7月27日

<注意> 減数分裂期は気象災害に最も弱い時期です。低温時には深水、フェーン現象時には入水してください。

1. 適正な穂肥で食味と品質を高めよう！

◎品種別穂肥時期の目安と基準施用量

品種名	地域	回数	施用時期	基準施用量 (10a 当たり)	第 1 回 目 の 幼 穂 長 ・ 葉 色
				BBいしかわライト550	
コシヒカリ	普通田	第1回	7月 6日～ 8日	9～13 kg	 幼穂長：15mm 葉色：3.5
		第2回	7月14日～16日	17 kg	
	砂丘地	第1回	7月 6日～ 8日	9～13 kg	
		第2回	7月14日～16日	13 kg	
		第3回	7月18日～20日	7 kg	
カグラモチ	第1回	7月 4日～ 6日	11 kg	・幼穂長：3mm ・葉色：4.0 ・葉色の濃い場合は2～3日遅らせる ・出来過ぎは減肥する	
	第2回	7月13日～15日	13 kg		
	第3回	7月19日～21日	9 kg		

※晩植コシヒカリの穂肥については別途ご案内します。

※一発肥料の圃場は、原則穂肥は不要ですが、葉色が薄い場合は営農指導員にお尋ね下さい。

◎コシヒカリの第1回目穂肥診断の目安

生育量の目安	葉 色	葉の乱れ	施用時期（幼穂長）	施 用 量
条間の田面が手前 30～50m程度まで見える 	うすい	立っている	早く (5～8mm)	基準量
		ひらついている	やや早 (10mm)	
	3.5 (基準)	立っている	標準 (15mm)	基準量
		ひらついている	遅く (20～30mm)	
条間の田面が見えない 	濃 い	立っている	標準 (15mm)	減らす
		ひらついている	遅く (20～30mm)	
	うすい	立っている	標準 (15mm)	基準量
		ひらついている	遅く (20～30mm)	
3.5 (基準)	立っている	標準 (15mm)	減らす	
	ひらついている	遅く (20～30mm)		
濃 い	立っている	遅く (20～30mm)	減らす	
	ひらついている	施用しない		

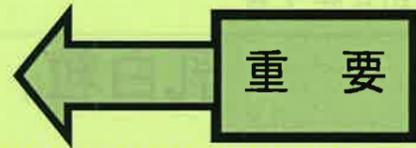
農薬を散布するときは、飛散に注意しましょう！

2. きめ細かな水管理で根の活力を維持し、乳白粒・褐色粒・胴割粒を防ごう！！

◆ 中干し終了後からの水管理 ～間断通水による飽水管理～

普通田→3日に1回入水

砂質浅耕土地帯→2～3日に1回入水



《飽水管理》少し足が沈む程度の湿潤状態を保つ・・・圃場周辺が白く乾く前に入水する！

□ 入水はなるべく水温の低い夕方～夜間、あるいは早朝とし、温度の高くなる日中は避ける。

□ 間断通水による飽水管理を刈取り5日前まで続けてください。

◆ 台風等によるフェーン現象が予想される場合は、あらかじめ入水し土壤水分を補給してください。

◆ 高夜温が続くような場合は、夜間に通水し、稲体の活力維持に努めてください。

3. 斑点米の原因となるカメムシ類の雑草地における生息数は増えています！

◆ 6月26日の雑草地調査では、農道や畦畔、休耕田、大麦跡田で生息密度が非常に高くなっています。

◆ 現在、カメムシ類の生息場所は雑草地です。畦畔や農道の草刈りを7月10日までに行って下さい。

また、大麦跡田や休耕田のすき込みを行なって下さい。

◆ 本田防除は下記を参考にして、確実に実施して下さい。

斑点米カメムシ類多発中！！

4. 効率的な防除で病害虫から稲を守ろう！

〔粉剤防除体系〕

散布適期	ノブラスパリダ粉剤DL 3～4kg/10a	ビームスタークル粉剤5DL 4kg/10a	ダントツ粉剤DL 4kg/10a
	いもち病、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウカ類等	カメムシ類、ウカ類、ツマグロヨコバイ、 イナゴ類
早生種	7月4日～7月6日	7月19日～7月21日	7月26日～7月28日
中生種	7月14日～7月16日	7月29日～7月31日	8月5日～8月7日

〔粒剤防除〕

散布適期	イモチエーススタークル粒剤 (3kg/10a)
	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウカ類等
早生種	7月6日～7月10日
中生種	7月16日～7月20日

◆ 粒剤散布にあたっては湛水状態で散布し、散布後7日間は落水およびかけ流しをしないでください。

◆ 集落ぐるみの一斉防除で効果がアップします。ただし、早生と中生の防除適期が異なるので注意！

◆ 散布後、3時間程度降雨がなければ防除効果があるので、適期防除に努めてください。

5. 倒伏軽減対応（対象品種：コシヒカリ）

倒伏のおそれのある場合は、スマレクト粒剤を出穂20～7日前に2～3kg/10a散布（湛水後に散布し7日間止め水とする）

散布適期は、7月5日～18日です。

6. 葉いもちの発生に注意しよう！

田廻りで早期発見・早期防除に努めてください。

使用薬剤名：ブラシン粉剤DL 4kg/10a

くわしいことは営農指導員にお尋ね下さい

飽水管理の励行と基幹防除の徹底で、安全安心きれいな根上米をつくらう！